



特集号

藤沢町住民自治協議会報

希望のケルン

令和5年3月24日発行

藤沢町住民自治協議会

〒029-3405

一関市藤沢町藤沢字仁郷12番地-5

電話:63-5515 Fax:63-5517

Mail: fuji@dontokoi-f.com

ホームページ URL: <https://dontokoi-f.com/>

皆様の情報をお待ちしております。

はじめに

ビューティフル藤沢整備事業が、昭和63年（1988年）に始まり、令和4年で34年となりました。この間、花壇や沿道などに植えられたマリーゴールドを始めとする花々は、多くの市民の方々に癒やしと安らぎを与えてきました。

この活動が34年という長い間に、地域の環境整備のみならず、地域づくりや、「地域の支え合い」という福祉の大輪も咲かせてました。

「10万本の花咲くまち」を合い言葉に始まった、「ビューティフル藤沢整備事業」に焦点を当て、特集しました。

◎ビューティフル藤沢整備事業の誕生

昭和63年3月、当時の藤沢町では10年後の未来を見据え「新・藤沢町総合開発計画（プラン'87）」が策定され、「人づくり」「組織づくり」「地域づくり」が、町の発展の基礎だとされました。

町民が明るく豊かなまちづくりを進めていく上で、そのシンボリックな事業となったのが、この「ビューティフル藤沢整備事業」です。

ビューティフル藤沢整備事業 3つの柱

○花の町整備事業（花咲く、夢とロマンの里藤沢）

・フラワーロード作戦・コミュニティー花壇作戦など

○きれいな川整備事業（川に魚が泳ぎ、子どもたちが安心して遊べる川の整備）

○街並み整備事業（公共施設、建物等の景観整備）

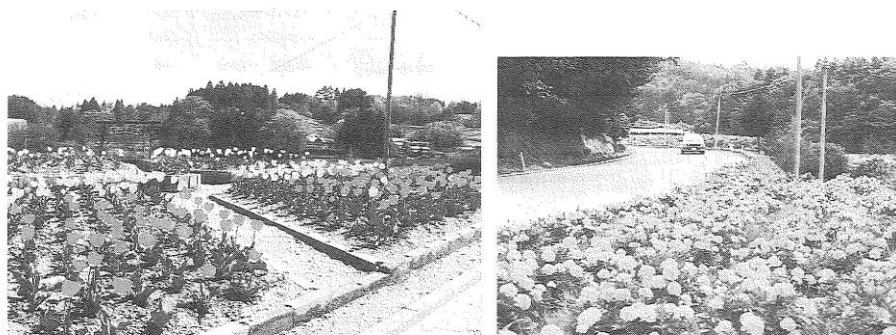
事業の開始

当時、藤沢町自治会協議会では、この事業を推進するため「プロジェクトチーム」を編成し、具体的な取り組みが検討されました。

昭和63年4月、総会で「ビューティフル藤沢整備事業」の開始が決定され、事業への取り組みがスタートしました。

まず、各自治会が中心となり花壇づくりが始まり、6月には、マリーゴールドなどの花苗が配布され、整備された各々の花壇に植え付けが行なわれました。

昭和63年度 ビューティフル藤沢整備事業スタート



コミュニティー花壇とフラワーロード

花壇は人々に安らぎを与える場、みんなの心を寄せ集めて、花壇づくりを！

目標に向け

「10万本の花咲くまち」という目標達成に向け、事業がスタート。各自治会には、この事業を進める「推進員」が置かれました。

初年度には、協議会配布の苗や自家製苗を含め、4万6千9百本が植えられ、3年目には目標を超える11万3千本余りの花を咲かせたと、当時の「広報ふじさわ」に記されています。

また、フォトコンテストや、「花壇コンクール」も行なわれました。現在では、一関市民憲章推進協議会「一関市花いっぱいコンクール」と、同時開催となっています。



花壇審査の様子

藤沢ならではの特色

○ 事業を開始した昭和63年は、自治会毎に37箇所の「コミュニティ花壇」を整備、また町内2箇所（藤沢、黄海）に「シンボル花壇」主要道路には「フラワーロード」の設置など、地域や自治会が中心となり、工夫を凝らした花壇づくりがスタートしました。また、自家製苗も数多く育てられていたようです。

自治会では、班ごとに花壇づくりをするなど、様々な取り組みが行なわれています。

現在では、学校や保育園などの公共施設や、企業・営農組織などを含めると、75の団体がこの事業に参加しています。これほど多くの各種団体参加している地域は市内でもありません。



自治会や事業所での花壇づくり



○ この事業の大きな特徴は、町内の福祉施設「社会福祉法人ふじの実会」に、花苗の育成を委託していることです。福祉施設と協力していくことは、「支え合いのまちづくり」のひとつとして取り組んでいる象徴的なものです。

福祉施設が一緒に行なうこの事業の取り組みは、住民との交流の場となっており、ふじの実会の事業として定着しています。

これは、「みんなの藤沢、みんなでつくろう」の合い言葉で進められる藤沢の「まちづくり」のひとつとなっています。



ワークジョイふじの実での、花苗の配付

地域環境の変化

近年多くの自治会から、高齢化や人口減少のため、「花壇づくりの作業に参加する人が少なくなった」、「今後の担い手が心配だ」などの声が聞かれます。これは他の事業にも言えることで、地域として取り組むべき課題のひとつです。

新たな取り組み

花壇をつくるだけではなく、植えた花々を活用し、自治会員の交流の場づくりや、高齢者の生きがいづくり活動に活かしてもらおうと、昨年から「ドライフラワーづくり」と「コキアを使ったホウキづくり」の二つの研修会を開き、実施しています。

藤沢町の人口の推移

昭和63年	11,126人
平成10年	10,665人
平成20年	9,464人
平成30年	7,971人
令和4年	7,300人

きれいな町、道路や川っていいね！

◎町内クリーンアップ斉清掃

ビューティフル藤沢整備事業のひとつとして、平成4年(1992年)4月19日に「第1回町内一斉クリーンアップ清掃」が行なわれてから、令和4年で30年となります。この事業は住民総参加で、地域の道路や河川を守る大切な清掃活動となっています。

「護美（ごみ）」は、美を護ること

地域の環境美化は、地域を守る活動でもあり、小さい頃から、みんなで取り組み、環境美化の意識を育み、地域の一員としての自覚を持ってもらうためにも、とても大切な活動です。

活動の継続して

現在は、年2回春と秋に実施しています。

これからは、クリーンアップでごみ拾いをするだけではなく、**地域を確認**（危険箇所や避難場所など）しながら、**地域を護る活動**につなげていましょう。



町内一斉に行われた
クリーンアップ清掃作業

きれいな道路や川っていいね
町内一斉にクリーンアップ清掃を実施

自治会協議会が主催する「第1回藤沢町クリーンアップ一斉清掃」が四月十九日、町内全域で行われ、道路や河川などで町民総出で大掃除を展開しました。
今回の一斉清掃は同協議会が進めている環境整備事業の一環として行われたもので、各自治会を単位として早朝六時から一斉に始められました。
一時間ほどすると各自が持ち寄ったゴミ袋はゴミや空き缶などいっぱいになりました。特に道端に捨てられている空き缶が多く見られ、マナーの悪さがうかがえました。
きれいな町をつくるには、みなさんの心掛けが大切です。この機会に環境美化について考えてみてはいかがでしょうか。

広報ふじさわ 平成4年5月号

令和4年度の参加者	
春季（4月）	1,700人
秋季（10月）	1,640人
年間参加者数	3,340人



◎生活物資リサイクル集団回収事業

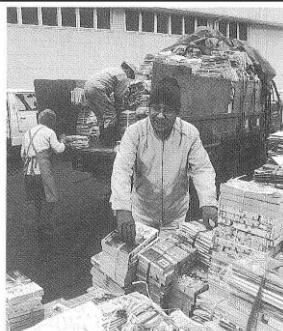
年々廃棄物の排出量が増え、限りある資源をリサイクルして活用しようという機運が高まり、当時の藤沢町自治会協議会では、平成5年(1,993年)11月に、1回目の「生活物資リサイクル集団回収事業」を始めました。以来令和4年で29年となります。

地区毎（4地区）に収集、とりまとめを行ない、資源リサイクル事業者に引き渡します。

現在は、6月、10月、2月の年3回行なっています。

ごみ→リサイクル→資源 自治会単位で分別回収

「分ければ資源、捨てればごみ、捨てる前にもう1度考えて…」自治会協議会（掛川公男会長）では、本年度から「生活物資リサイクル事業」に取り組んでいます。12月5日、初の回収作業が行われました。住民のごみ問題に対する意識の高まりやごみ処理にかかる経費の軽減などを目的に、各家庭のリサイクル可能なごみが自治会単位に回収されました。回収場所の一つとなった町民体育館前には新聞、雑誌、空き瓶、空き缶などが次々と運び込まれ、回収業者に引き取られました。自治会協議会では3月にもう1度回収作業を予定しています。



広報ふじさわ 平成5年12月号

限りある資源を、大切に！



回収された資源の売上金は、一関市の報奨金とを合わせて配分され、各自治会の活動資金の一助ともなっています。

☆「捨てればゴミ、使えば資源」です。今後とも皆様のご協力をお願いします。☆

令和4年に回収された資源量 （第86～88回の総合計）

アルミ スチール缶類	6,685 Kg
古紙 ダンボール類	104,037 Kg
ビン類	3,793 本

ビューティフル藤沢整備事業の新たな取り組み！

花壇の「花」は植えるだけ？見るだけ？

もっと楽しむ方法はないの？活用する方法はないの？

そんな思いから生まれた、取り組みです。

- ・自治会花壇に植えた花を、もっと有効に活用しよう。
- ・自治会の活動に活かしてもらう。
- ・高齢者の「生きがいづくり」活動に役立てる。



①ドライフラワーづくり研修

令和2年度から、ドライフラワーに適した「千日紅」や「帝王貝細工」の花苗を加えました。

秋にはその花を「ドライフラワー」に加工し、花籠や壁飾りにアレンジメントする研修会を開催しています。出来上がった作品は、藤沢地域産業文化祭に展示し、来場された方々にいただきました。ぜひ、自治会でも取り組んでみてください。



藤沢地域産業文化祭の展示

②「コキア」を使ったハウキづくり研修

コキアは、別名を「ハウキ草」ともいいます。ハウキづくりに適した植物です。

そこで花壇に植えられたコキアを有効に使い、「ハウキづくり研修」を開催しました。「ハウキ」に加工すると、自治会や家庭、職場でも使えます。

子どもたちとの交流の場や、高齢者のいきがいづくりの場づくりに役立つものと思います。是非、取り組んでみてください。



～～ 編集後記 ～～

はじめてから30年余りとなった、この「ビューティフル藤沢整備事業」は、地域の皆様の協力により、長年にわたり続けてこられました。その道筋には、人口減少や高齢化による担い手不足など、色々と苦労があったと推測されます。

この事業は、「みんなのふじさわ、みんなでつくろう」を合い言葉に進めてきた「まちづくり」の象徴でもあり、「支え合いのまちづくり」にも活かされています。

この特集号発行を契機に、あらためてこの事業の趣旨をご理解頂き、自治会やみんなで協力し合い、「きれいな町」、「住みよい町」を目指し、今後も進めていきたいものです。

藤沢町住民自治協議会 広報部会
部会員 一同